

ミニバスケットボール指導心得

ミニバスケットボールの競技規則書(ルールブック)のまえがきには、ミニバスケットボールは、「友情・ほほえみ・フェアプレイの精神」によって行われるものとされている。

子どもたちにとって、ミニバスケットボールが、面白いもの、楽しいものであり、将来、バスケットボールをしてみたいという動機になったり、スポーツに接した時、喜びを感じさせたりするものでなければならない。

この理念のもと、全ての加盟チームが、児童の健全な育成に寄与する指導を行うものとする。

1. 指導者は、子どもたちに次のような心情を育むように指導すること。

- (1) 規則、規律を遵守する心
- (2) 挨拶、礼儀を重んじる心
- (3) 自分たちを支えてくれる周りの人々に感謝する心
- (4) チームメイトを思いやる心
- (5) チームのために自己犠牲を払う精神
- (6) 他人に迷惑をかけない道徳心、公共心
- (7) 同じミニバスケットボールを志す対戦チームの選手への敬意



2. 指導者は、子どもたちが効果的、且つ平等に練習できるように工夫すること。

3. 指導者は、子どもたちがコート上でケガをしないように万全を期すこと。

4. 指導者は、子どもたち一人一人が持っている良さを発掘し、発揮した時に最大限称賛すること。

5. ゲームに勝つことは、指導者にとっても子どもたちにとっても魅力的なことではあるが、指導者は、何が何でも勝つという考え方を子どもたちに教え込んではいけない。

6. 指導者は、子どもたちに行き過ぎた負荷(練習時間・内容、遠征など)を強いてはいけない。

7. 指導者は、子どもたちに練習・ゲームにおいて暴力行為をしてはならない。また、暴言を吐いてはならない。

8. 指導者は、指導者同士が相互に敬意を払い、子どもたちの模範となること。

9. 指導者は、チームの活動方針・運営方法について育成会と十分に話し合うこと。

10. 指導者は、子どもたち、及び育成会に応援マナー、会場使用上のルールを遵守させること。